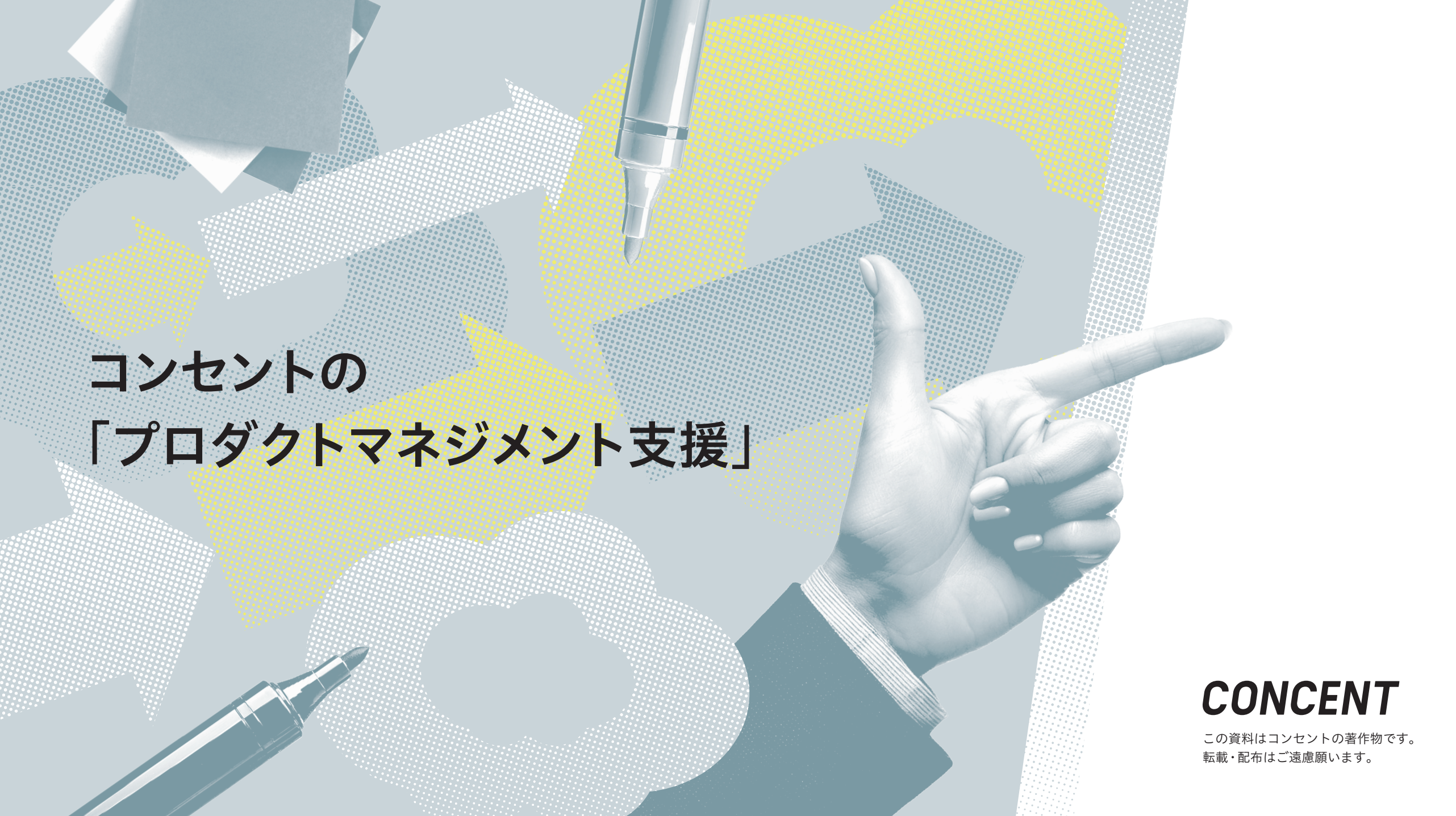




コンセントの 「プロダクトマネジメント支援」

CONCENT

この資料はコンセントの著作物です。
転載・配布はご遠慮願います。

はじめに

サービスデザインの知見を生かしてプロダクトの成功を後押しする	03
プロダクト開発でよくある困りごと	04
プロダクトマネジメントを導入し、プロダクトを成功に導く	05
プロダクトマネジメントの役割	06
コンセントのプロダクトマネジメント支援・4つの強み	07

事例紹介

01 / 本質的な価値をユーザー自身に問い、多面的な事業開発を支援	09
02 / カタチにすることでプロダクト開発を加速させる	10
03 / 対話とクリエイティブで目指す未来をかたちづくる	11
04 / 自走できる組織を目標とした伴走支援	12

支援メニュー	新規事業立ち上げ支援	14
	仮説検証支援	15
	プロダクト開発チーム自走化支援	16

サービスデザインの 知見を生かして プロダクトの 成功を後押しする

デジタル技術の活用が進む中、さまざまな現場でプロダクト開発が行われています。
プロダクトを通して実現したい未来に向け、スピード感を持った開発が求められています。

しかし、その過程で見落としがちなのが
「この機能は本当にユーザーにとって価値があるのか？」
「ユーザーに価値を届けるために最適な方法を取れているのか？」という
本質的な問いに答えるプロセスの設計と実行です。

近年、よく耳にするようになった「プロダクトマネジメント」とは
開発チームが常にユーザーにとっての価値を思考し
目指す方向についての共通認識を持つことで、プロダクトビジョンを実現する考え方です。

コンセントはサービスデザインの知見を生かし
徹底したユーザー理解に基づいたビジョンの策定からプロダクトの継続的な改善まで
クライアントのプロダクトマネジメントを支援する体制が整っています。

本資料では、プロダクトマネジメントの基本を振り返りながら
実例に基づいた支援内容についてご紹介します。

プロダクト開発でよくある

困りごと

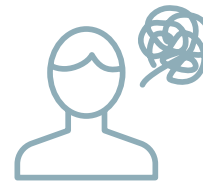
目先の機能開発に
囚われるあまり
**戦略性のない
プロダクト**
になりつつある

顧客や社内からの
要望に応えているものの、
**目指す方向性が
見えない**

投入した
**リソースに対する
相応の効果**
を得ることができていない

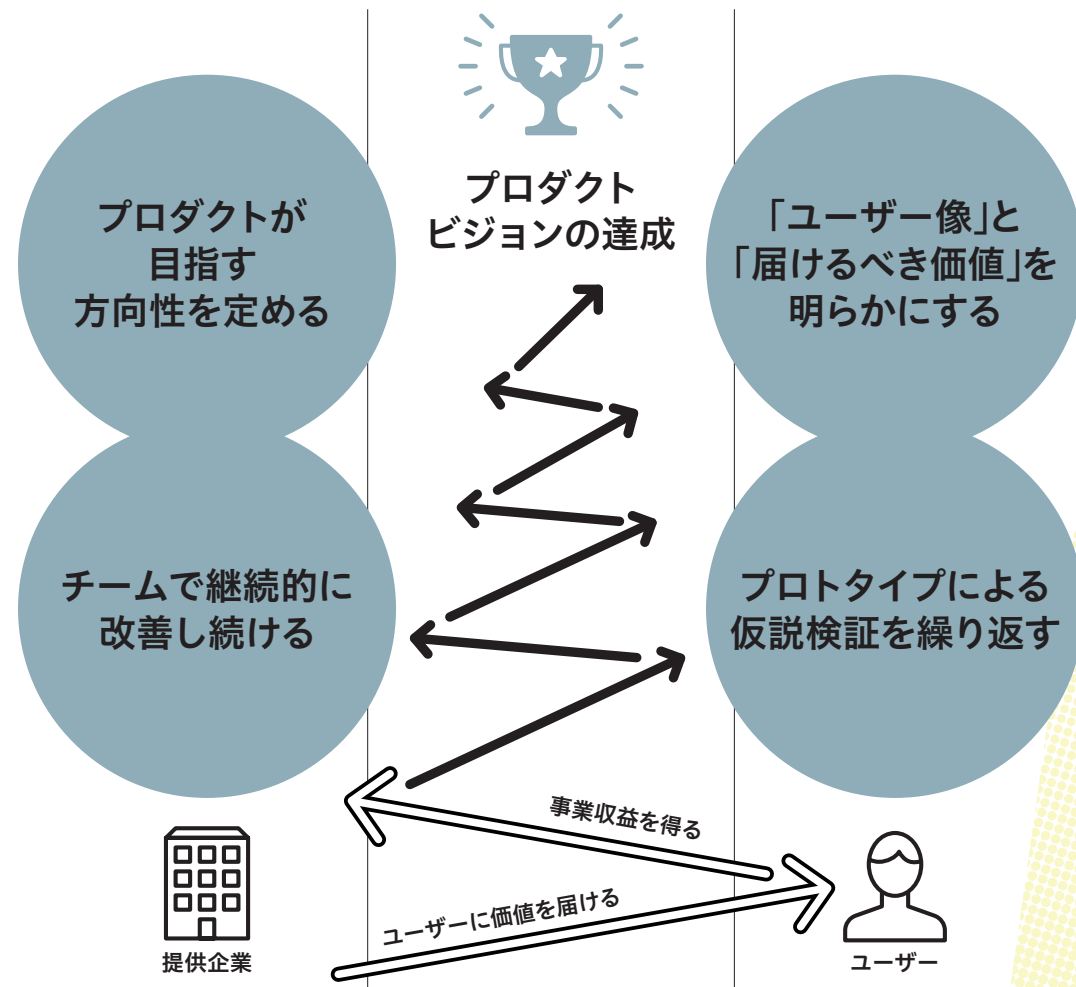
メンバーによって
ビジョンに温度差があり、
**チーム全体に
活気がない**

開発したい機能のアイデアは
たくさんあるものの、
**優先順位を
つけられない**



プロダクトマネジメントを導入し、 プロダクトを成功に導く

プロダクトの成功とは、
プロダクトビジョンが継続的に達成されている状態です。
そのためには、ユーザーに価値を届けることで
事業収益を得て、さらなるユーザー価値の最大化のために
投資する循環をつくり出す必要があります。
ユーザーと、開発チームと向き合いながら循環を生み出し、
事業を発展させる営みがプロダクトマネジメントです。



プロダクトマネジメントの 役割

ユーザーと
プロダクトチームの
架け橋となる

届けるべき
「価値」を定める



プロダクト開発は「誰に」「どんな価値」を届けるのかを明確にすることから始まります。プロダクトマネジメントの最初に取り組みとして、定性・定量の両面からリサーチを主導し、**ユーザーが抱える本質的な課題を特定**することで「ユーザー像」と「届けるべき価値」を明らかにして、開発チームが進むべき方向性を提示します。

どのようにユーザーに
価値を届けるべきか
仮説検証を繰り返す

プロダクトの
方向性を絞り込む



届けるべき価値が明らかになったら、どう届けるかのアイデアを磨いていきます。着想したアイデアは即座に形にし、最小限のリソースで最大限のアウトカムが得られるよう、小さな実験を繰り返していきます。限られたリソースの中で、いかに**無駄のないプロダクト開発を実行できるかの設計**もプロダクトマネジメントの重要な役割です。

メンバーとの
コミュニケーションを
密にとる

チームとして目指す
方向性を示し続ける



プロダクト開発はマラソンのようなもの。途中で異なる方向に走ったり、ゴールを見失い立ち往生するメンバーも出てきます。プロダクトマネジメントにおいて、リーダーがメンバーと個別にコミュニケーションすることはもちろん、チーム全体でワークショップを開催するなど、**共通認識をもつための継続的な取り組み**が求められます。

01

ユーザーにとっての
プロダクト価値を明らかにする

【ユーザーリサーチ】

プロダクトの成功にはユーザーの課題を知り、解決し、プロダクトの価値を高め続ける必要があります。アンケート・インタビュー・エスノグラフィなどのリサーチを行い、開発チームにフィードバックすることにより、一貫性のあるプロダクト開発を支援します。

02

アイデアを検証可能な形に変える

【プロトタイピング】

サービスデザインを軸に、グラフィック・UX・コンテンツなどさまざまな専門性を持ったデザイナーたちが素早くプロトタイピングを行い、仮説の検証を支援します。プロダクト開発における不確実性を排除し、成功への確度を向上させます。

コンセントの

プロダクトマネジメント支援

4つの強み

03

チームの共通認識をつくり出す

【ファシリテーション】

円滑なプロダクト開発には、開発チーム全員がプロダクトの向かう方向について共通認識を持ち、共感している状態が必要です。ワークショップなどを用いた合意形成を行うことで、チームメンバーの一人ひとりの思考の言語化を支援し、プロダクトに対する共通認識を醸成します。

04

課題解決の取り組みが
自立的に行えるチームづくり

【組織・人材開発】

これまでコンセントが実施してきた組織デザインや人材開発の知見を生かし、座学とワークを組み合わせた研修プログラムの実施や、開発プロセス・仮説検証プロセスの整備などを行い、開発チームのスキル・知識レベルを高めます。

事例紹介

コンセントの
プロダクトマネジメントの支援例を
手法別にご紹介します。

01

ユーザーリサーチ

本質的な価値をユーザー自身に問い、多面的な事業開発を支援

株式会社長谷工コーポレーション様（サービス利用：長谷工コミュニティ様）
マンション管理サービス「smooth-e」事業開発支援

02

プロトタイピング

カタチにすることでプロダクト開発を加速させる

BIPROGY株式会社様
次世代キャッシュレス体験を創造する「doreca®」サービスデザイン

03

ファシリテーション

対話とクリエイティブで目指す未来をかたちづくる

讀賣テレビ放送株式会社様
2030年の未来に向けたDXチームビジョン検討支援

04

組織・人材開発

自走できる組織を目標とした伴走支援

コンシューマー向け金融サービス企業
デジタルプロダクト開発

事例

01

ユーザーリサーチ

本質的な価値をユーザー自身に問い、 多面的な事業開発を支援

支援内容

従来型の理事会を廃止し、住人みんなが主人公になれる

マンション管理の新しいカタチを提案する

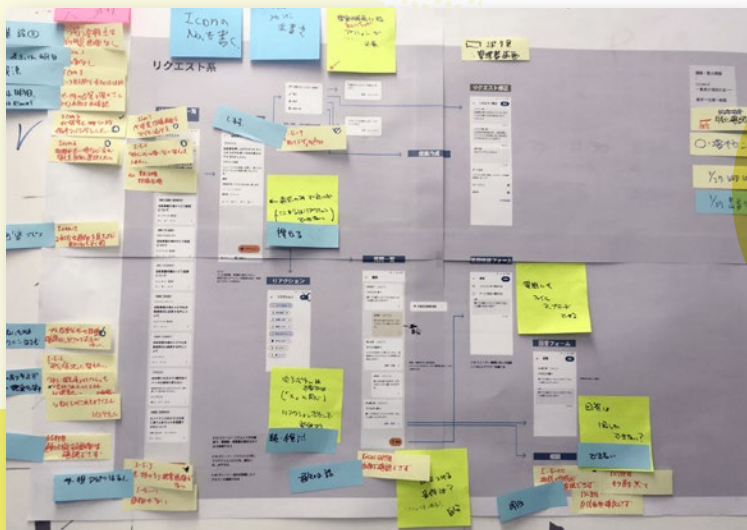
長谷エココミュニティ「smooth-e(スムージー)」の

事業開発を支援しました。

コンセプト開発からMVP(最小限実用可能なプロダクト)による

検証およびその後の事業化とサービス拡大に至るまで

長期的に伴走しながら事業開発を幅広く支援しています。



MVP検証

3棟のマンションから試験運用を開始。効果測定をもとに運用方法やUIを継続的に改善。

事業戦略策定／顧客体験設計

プロモーションも含めた全体の顧客体験設計と事業戦略策定を実施。



プロダクト開発

ローンチ後も継続的なユーザーリサーチとプロダクト改善を支援している。

CLIENT



株式会社長谷エコーポレーション
(サービス利用: 長谷エココミュニティ)様
マンション管理サービス
「smooth-e」事業開発支援

[事例紹介ページへ](#)



コンセプト開発

ユーザーリサーチ結果を踏まえ、「人々が共に住もう」ことの本質的な意味を問い直す。



事例

02

プロトタイプング

カタチにすることで プロダクト開発を加速させる

支援内容

BIPROGYのデジタルマネー基盤「doreca®」のサービスデザイン、
およびプロモーションの支援を行いました。
企画段階から4年にわたって断続的に伴走し
体験設計、ブランド構築、プロモーションプランニングなど
幅広い分野で支援を続けています。



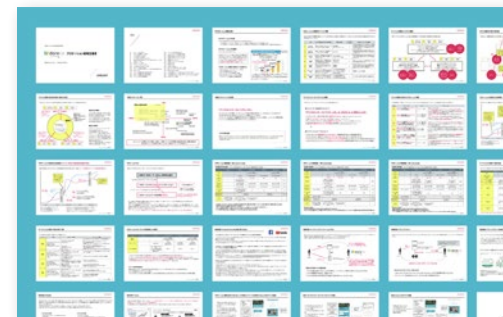
コンセプト インプレッションシートの作成

早期に説明資料をつくることで
サービスの魅力訴求ポイントを具
体化していく。

UXプロトタイプング
インタラククションにこだ
わったモックアップを作成
し、気持ちの良い利用体験
を追求。

ブランド構築支援

好きなデジタルマネーを
選べるという点と、「手軽に
気持ちよく」というコンセ
プトを表現。

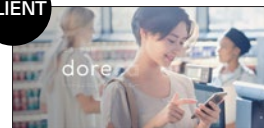


プロモーション プランニング

誰にどのようにメッセージ
を届けることでどのような
効果が得られるかを綿密に
計画。



CLIENT



BIPROGY株式会社様
次世代キャッシュレス体験を創造する
「doreca®」サービスデザイン
[事例紹介ページへ](#)

事例

03

ファシリテーション

対話とクリエイティブで 目指す未来をかたちづくる

支援内容

読売テレビのDX推進本部の
2030年に向けたビジョン策定を支援。
6日間にわたる共創ワークショップを設計・運営しました。
あわせて、ビジョンを社内ステークホルダーに説明するための
プレゼンテーション資料の編集・デザインも行いました。

ビジュアルによる ファシリテーション

デザイナーがワークショップに参加し、アイデアの
イメージ具体化し議論を活
性化。

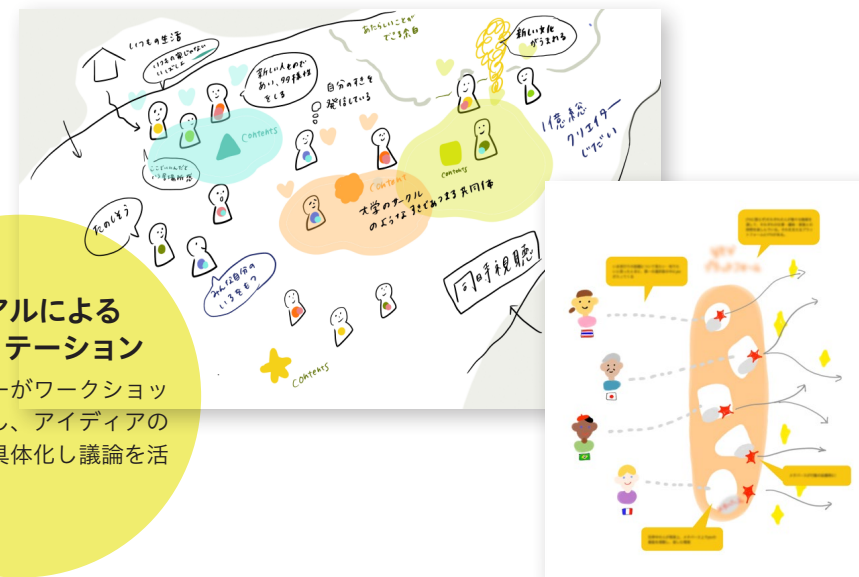


共創のための場づくり

入社時期・職種・肩書にとらわれ
ず、メンバーが主体的に議論を進
めていける場を設計。

プレゼンテーション 資料の編集とデザイン

誰にどのようにメッセージを届け
ることでどのような効果が得られ
るかを綿密に計画。



現在と未来をつなぐ ワークの設計

「バックキャスティング」
や「ストーリープロタイ
ピング」など手法で未来の
在り方を具体化。

CLIENT



読売テレビ放送株式会社様
2030年の未来に向けた
DXチームビジョン検討支援
事例紹介ページへ [▶](#)

事例

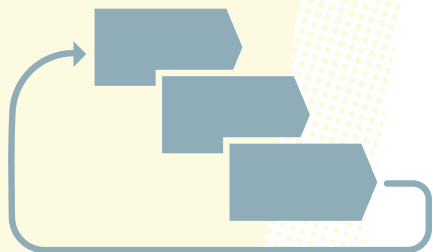
04

組織・人材開発

自走できる組織を目標とした 伴走支援

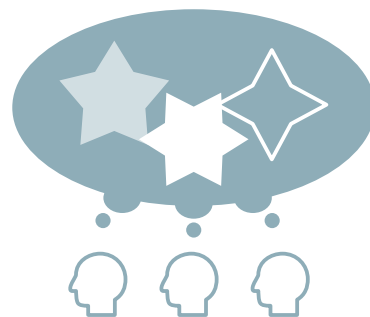
支援内容

デジタルプロダクト開発部門のパートナーとして
継続的な組織・人材開発の支援を実施しています。
デザイン経験が少ないメンバーでも、自分たちで課題を発見し
ソリューションを考案し
カタチにすることができる状態を目指しています。



カスタマージャーニー マネジメント

理想のジャーニーと現在の差分から施策ア
イディアを出し効果測定の結果を反映。

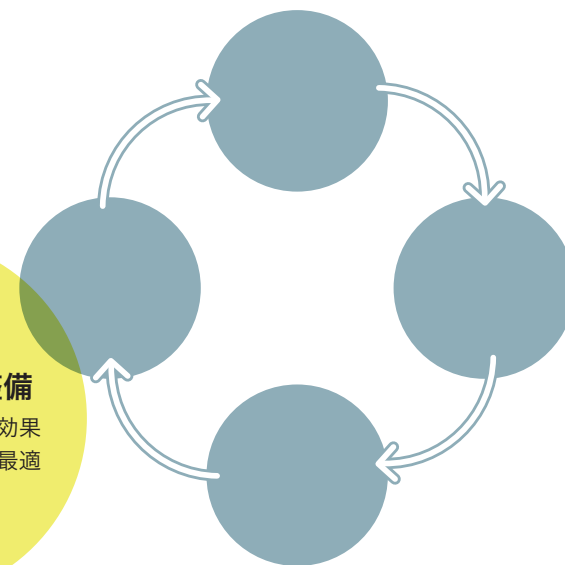


UXコンセプト策定

プロダクト全体で一貫した体験を
提供するための約束事を定めチー
ムの共通理解をつくる。

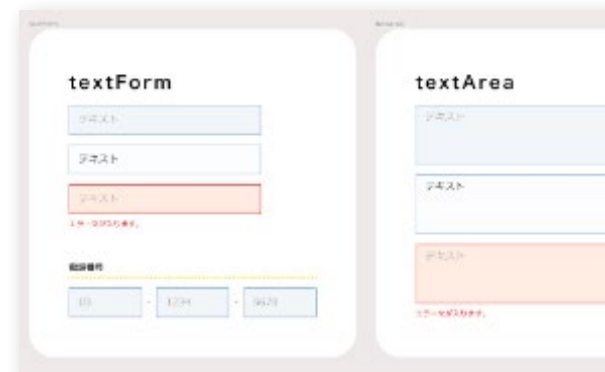
プロダクト 開発プロセスの整備

施策の起案から実行、効果
測定までのプロセスと最適
な人員配置を検討。



Figma環境整備

デザインに不慣れな担当者
でもスピーディーに画面イ
メージを作成できる環境を
整えた。



CLIENT



コンシューマー向け
金融サービス企業
デジタルプロダクト開発

支援メニュー

コンセントの
プロダクトマネジメント支援の
内容、費用イメージをご紹介します。

menu

01

新規事業立ち上げ支援

menu

02

仮説検証支援

menu

03

プロダクト開発チーム自走化支援

menu
01

新規事業立ち上げ支援

市場動向やトレンド調査の結果を踏まえて、新規事業の立ち上げに1から伴走します。
事業アイデアに最適なユーザーリサーチを実施し、
ユーザー体験・ビジネスモデル・業務オペレーションなど包括的な設計を行います。

支援内容

[支援アクション例]

- ☐ リーンキャンバスを用いた事業アイデアの整理
- ☐ ユーザーリサーチ
- ☐ ペルソナ作成
- ☐ バリュープロポジションキャンバス作成
- ☐ コンセプトインプレッションシート作成 ☒
- ☐ カスタマージャーニーマップ作成
- ☐ コンセプトテスト

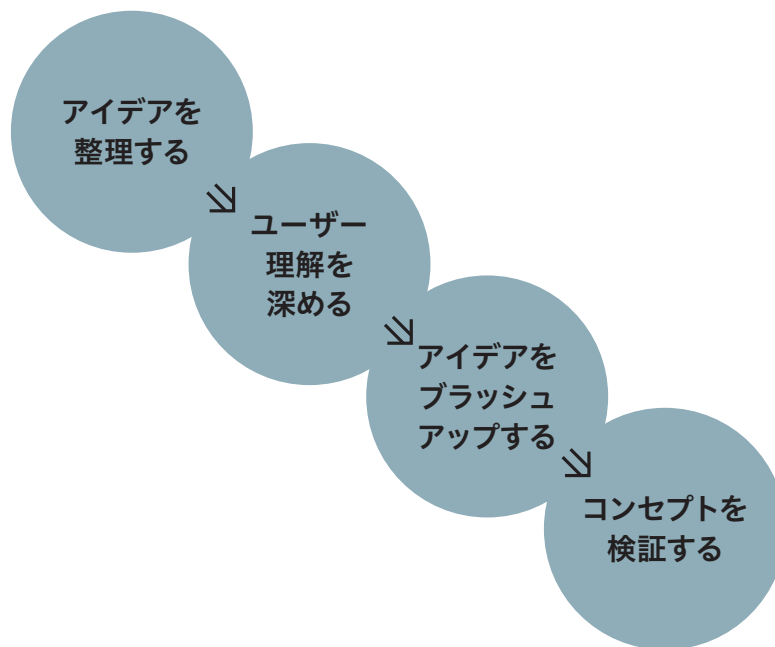
[アサインイメージ]

- ☐ サービスデザイナー
- ☐ UX/UIデザイナー
- ☐ コミュニケーションデザイナー

[費用イメージ]

☐ 500万円～

制作フロー



menu 02

仮説検証支援

プロダクト開発の状況をヒアリングした上で、フェーズに合わせたプロトタイプを作成し仮説検証を支援します。プロダクトをグロスさせるために開発すべき機能の優先順位や開発プロセスにおける課題を特定します。

支援内容

[支援アクション例]

- ☐ 事業における不確実性の整理
- ☐ ユーザーストーリーマッピング
- ☐ メトリクス設計／検証方法設計
- ☐ KPI設計／フライホイールモデルの作成
- ☐ プロトタイプ作成
- ☐ 実査／分析
- ☐ 改善策検討

[アサインイメージ]

- ☐ サービスデザイナー
- ☐ UX/UIデザイナー
- ☐ エンジニア

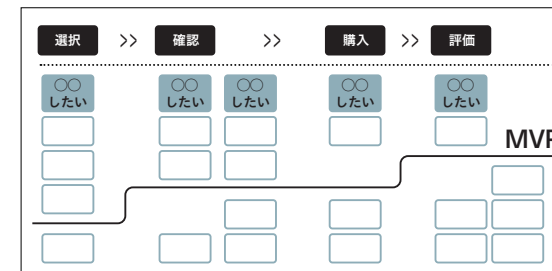
[費用イメージ]

☐ 200万円～／1カ月

検証ツール

☐ MVPキャンパス

検証すべき仮説を明確にし、有効な検証方法を検討するために作成します。



☐ ユーザーストーリーマッピング

ユーザーの行動フローを示した上で最小限の機能を絞り込むことができます。仮説の検証に必要な十分な機能を見極めるために使用します。

プロダクトおよび開発組織の現状調査からボトルネックを特定し
プロダクトロードマップ作成支援や、開発プロセスの整備といった
成果が出しやすくなる仕組みをつくるご支援を継続的に実施します。

支援内容

[支援アクション例]

- ☐ プロダクトロードマップマネジメント支援
- ☐ プロダクト開発プロセス整備
- ☐ プロダクト改善企画支援
- ☐ UIデザインアドバイザリー

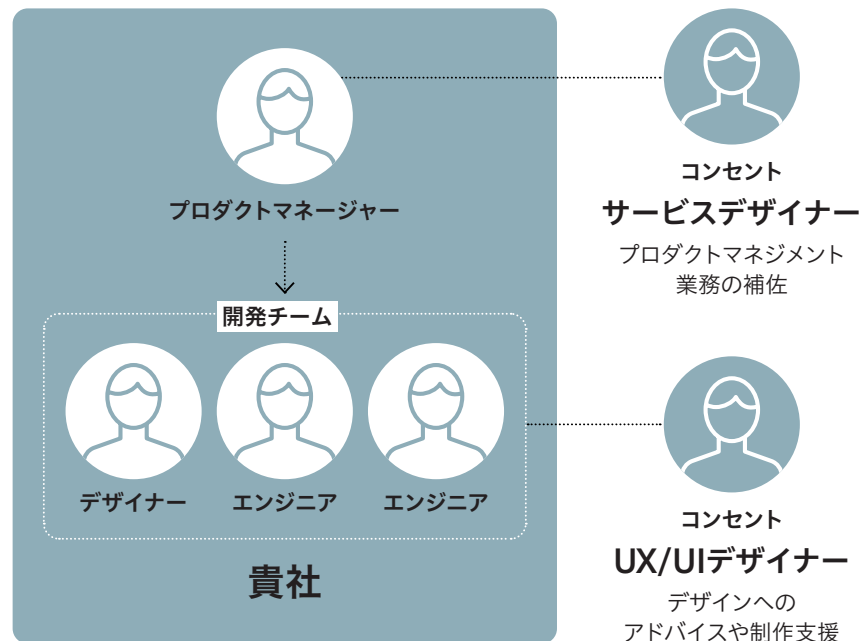
[アサインイメージ]

- ☐ サービスデザイナー
- ☐ UX/UIデザイナー

[費用イメージ]

- 150万円～／1ヵ月

体制イメージ



コンセントのUX/UIデザイナーに 無料相談してみませんか？



本資料で紹介した支援メニューは、
貴社の課題や開発状況に合わせてカスタマイズすることができます。
コンセントのUX/UIデザイナーが現状をお伺いし、最適な進め方をご提案します。

無料相談を申し込む >

ビジネスに役立つ デザインナレッジをお届けします



コンセントのメールマガジンではメンバーによるコラムや最新事例、
イベントや書籍情報をお届けしています。
貴社のビジネスに役立つ“気付き”がきっと見つかります。

メルマガに登録する >

バックナンバーを見る >

お問い合わせ

コンセントへのお問合せはコーポレートサイト内「お問い合わせフォーム」よりご連絡ください。<https://www.concentinc.jp/contact/> 